

外国語科学習指導案（5年）

1 単元名 位置・場所 Where's the park? (啓林館 Blue Sky 5 Unit7)

2 教材観

(1) 学習指導要領上の位置付け

目標

(1) 聞くこと

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

内容

(1) ウ 語、連語及び慣用表現

(ウ) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの

(1) エ 文及び文構造

(ア) 文

d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞 (can, do など) で始まるもの、疑問詞 (who, what, when, where, why, how) で始まるもの

(3) ②ア 言語の使用場面の例

(イ) 特有の表現がよく使われる場面

・挨拶 ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 ・旅行 など

(2) 単元の価値

「思考力、判断力、表現力等」が育成され、より一層英語の定着が期待できるのは、児童が「自分が伝えるためには、この言葉が使える」などと、必要性を感じながら当該言語材料を使用するときである。

本単元では、位置や場所を表す表現を取り扱い、物の場所や建物や店の場所について尋ね合う活動が設定されている。そこで、単元の終末に「道案内をし合い、落とし物を届ける」という言語活動を設定することにより、児童の生活や経験で実際にあるような言語活動となり、児童が想像しやすく、必要感をもって取り組むことができると考える。さらに、「落とし物を届けに行く」という目的があること、「落とし物をした子の家の場所は、案内役のみが知っている（届けに行く役の児童は未知である）」という状況が設定されていることで、対話への必然性が生じ、目的意識をもって活動に取り組むことができると考える。

また、子どもたちは、お手伝いや人助けが大好きであり、学習した知識を使って、「道案内をし合い、落とし物を届ける」という体験を通して、英語で表現することの楽しさや有用性を実感させることができると考える。

日本を訪れる外国人観光客は、年々増加傾向にあり、来年には東京オリンピックが開催される。観光地や町中で外国人観光客を見かけることも多くなり、道を聞かれる状況は十分あり得る。本題材を扱うことで、道を聞かれたときはもちろん、困っていそうな人を見かけたときに、声をかけて、助けとなれるようにしたい。

(3) 今後の学習への活用

本単元で学習した位置や場所を表す表現は、店や建物のこと等を話題にした Small Talk や、第6学年 Unit 3 「自分たちの町・地域 I want a big park in our town.」において、自分の地域にあるもの・ないもの・あったらよいと思うものを考え、地域をよりよくするための提案をする活動で活用される。

3 児童生徒の実態及び指導方針

(1) 既習の学習内容や活動

- ・4年生では、「お気に入りの場所をしょうかいしよう。(This is my favorite place.)」において、自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりする活動をしている。その際、言語材料として、「Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is (the music room).」を扱っている。
- ・5年生では、Unit 6 「行きたい国 (I want to go to France.)」において、自分の行ってみたい国を紹介したり、友達を旅行に誘ったりする活動を行い、“Where do you want to go?” 等の、Where を用いた表現に十分慣れ親しんでいる。

(2) 本単元に関わる児童生徒の実態

(略)

(3) 指導方針

【つかむ過程】

- ・児童が位置や場所、道のりについて伝える活動に必要感をもって取り組めるよう、探しているものやなくしたものが分かる場面を教師が実演し、言語材料を活用する場面を見せる。
- ・児童が主体的に活動できるよう、単元の課題は、児童の身近な生活の中にあるような、想像しやすい場面を設定する。

【追究する過程】

- ・位置や場所、道のりについての表現に慣れ親しむために、チャンツやゲームを通して繰り返し言い慣れることができるようにする。
- ・相手意識をもつことができるよう、目的・場面・状況を設定し、やり取りのポイントを確認する。

【まとめる過程】

- ・ペアやグループでやり取りした後、学級全体で児童が言いたかったが言えなかった表現を確認したり、相手への配慮の工夫が見られるやり取りを紹介したりして、よりよいコミュニケーションに参考となる点を共有する。

【全体を通して】

- ・児童に「やってみたい」と、意欲をもたせることができるよう、課題を解決するための発話例を教師と ALT の実演で示す。
- ・習得してきたことを自覚できるよう、言語面として言えたことや、内容面としてできたことや気付いたことなどの視点を与え、毎時間振り返りを行わせる。

4 校内研修との関わり

「落とし物を届ける」という、児童の生活や経験で実際にあるような場面において、落とし主の家までの道のりを自分なりに考え、道案内のやり取りをすることは、「主体的に学び、自分の考えを表現できる児童の育成」につながると考える。

5 単元の目標

落とし物をどこへ届けたらよいか教えたり教えてもらったりするために、落とし主の家の位置や場所、道のりなど、正確な情報を聞き取ったり伝えたりすることができる。

6 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>〈知識〉 位置や場所を表す語彙や、道案内の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 位置や場所を表す語彙や、道案内の表現を聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>落とし物をどこへ届けたらよいか知るために、落とし主の家の位置や場所、道のりなど、具体的な情報を聞き取っている。</p>	<p>落とし物をどこへ届けたらよいか知るために、落とし主の家の位置や場所、道のりなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと (やり取り)	<p>〈知識〉 位置や場所を表す語彙や、道案内の表現について理解している。</p> <p>〈技能〉 位置や場所を表す語彙や、道案内の表現を用いて落とし主の家の位置や場所、道のりなどについて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>落とし物をどこへ届けたらよいか正確な情報を教えたり教えてもらったりするために、落とし主の家の位置や場所、道のりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。</p>	<p>落とし物をどこへ届けたらよいか正確な情報を教えたり教えてもらったりするために、落とし主の家の位置や場所、道のりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。</p>

7 指導計画（全7時間予定）

○：記録に残す評価

学習過程	時間	○ねらい ・学習活動	・主な指導上の留意点	評価の観点		
				知技	思判表	態度

つかむ	第1時	<p>○単元の課題を把握し、物がある場所の言い方に慣れ親しむようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の Small Talk を聞いて概要を推測し、落とし物を届けたり道案内をしたりすることに関心をもつ。 ・絵を見ながら位置を説明しているのを聞いて、位置を示す語の意味や使い方を推測する。 ・位置を表す表現を聞いて、その位置にある物を指さしする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の課題を解決する姿を把握することができるように、探しものが見つかる場面を教師が実演する。 ・位置を表す前置詞の意味をイメージをもって理解できるように、絵カードやジェスチャーを用いながら物の位置について繰り返し伝える。 ・知らない単語でも推測しながら理解できるように、場面や場所を把握させ、物の言い方などについて確認する。 	<div data-bbox="1225 174 1385 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p> </div>
	第2時	<p>○物がある場所を伝えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探し物がどこにあるか、たずねたり答えたりする。 ・位置を表す表現を聞いて、その位置にある物を指さしする。 ・絵を見ながら、物の位置を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を表す前置詞に慣れ親しむことができるように、ジェスチャーや実物を用いながら、チャンツや手拍子に合わせて復習をする。 ・位置を表す前置詞の意味を、イメージをもって理解できるように、教室のいろいろな場所に探すアイテムをセットし、どこにあるかたずねる。 	<div data-bbox="1225 958 1385 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p> </div>
追究する	第3時	<p>○建物や店の場所を聞き取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見ながら建物や店を表す単語を聞き、意味や使い方を推測する。 ・建物や店の名前をリズムに合わせて発音する。 ・建物や店の場所についての会話を聞き、場所を特定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物や店を表す語の意味をイメージで捉えながら理解できるように、ジェスチャーを交えたり、ピクチャーカードを見せたりしながら、繰り返し発音をさせる。 ・店や建物、位置関係を表す語彙や表現に十分に慣れ親しませることができるように、チャンツや教材の音声を使って、繰り返し聞かせたり、発音練習をさせたりする。 	<div data-bbox="1225 1489 1385 1758" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p> </div>

◎単元の課題 道案内をし合い、落とし物を届けよう。

	第4時	<p>○建物や店の場所を伝えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物や店の名前をリズムに合わせて発音する。 ・会話を聞いて、迷っている人がいる場所をつきとめる。 ・地図を見ながら、店や建物を目印にして、探している家はどこにあるのか考える。 ・グループで、家の場所を尋ねたり、答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもったやり取りのモデルとなるように、「ALTが道に迷っていて、今どこにいるのか尋ね、場所をつきとめる」という目的・場面・状況を設定する。 ・店や建物、位置関係を表す語彙や表現に慣れ親しむことができるように、学年の先生の家をクイズにして出題し、考えさせる。 ・店や建物、位置関係を表す語彙や表現に言い慣れることができるように、できる限りたくさんの言い方で、家の場所を伝え合わせる。 		聞	聞
まとめる	第5時	<p>○道案内の表現を聞き取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物や店の名前をリズムに合わせて発音する。 ・道案内の表現をよく聞き、リズムに合わせて発音する。 ・道案内のやり取りを聞きながら、ワークシートの地図上の道を指でたどる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物や店の名前を想起できるように、リズムよく発音させる。 ・道案内の表現に慣れ親しませることができるように、チャンツを繰り返し聞かせ、徐々にリズムに合わせて発話させる。 ・道案内の表現に慣れ親しませることができるように、拡大地図の道をたどりながら、道案内のやり取りを実演する。 		<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。</p>	

<p>第6時 【本時】</p>	<p>○道案内の表現等を使って、正確に情報が伝わるように、道を尋ねたり答えたりすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道案内の表現を確認する。 ・落とし物の場所と自分の家の場所を決め、行き方を考える。 ・グループで地図を見ながら道案内をし合い、落とし物を届ける。 ・中間発表を見て、より相手に伝わるやり取りについて考える。 ・単元全体を振り返り、できるようになったことなどを自己評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を想起し、本時の活動を見通すことができるように、落とし物を届ける場面の実演をする。 ・単元を通じて習得してきたことを自覚できるように、既習事項や使うことができるようになった表現を確認する。 ・相手に配慮したやり取りができるように、どうすれば相手により伝わりやすくなるか考えさせたり、児童に中間発表をさせたりする。 ・単元全体の学びを自覚できるように、言語面として伝えられたことや、内容面として新たに気付いたり、感じたりしたことを振り返らせる。 	<p>や</p>	<p>や</p>	<p>や</p>
<p>第7時</p>	<p>○アルファベットの小文字を識別し、見本と同じ文字列を探して書くことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字群から、見本の単語を探す。 ・単語を名前読みする。 ・単語を音読みする。 ・単語を空書きする。 ・単語を書き写す。 ・落とし物の届け先を聞き取り、ワークシートの中のその場所を示す欄に教科書を見ながら単語を書き写す。 ・単元全体の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大文字や小文字を正しく認識して書くことができるように、文字を書く前に、アルファベットの形を認識したり、読み方を練習したりする時間を十分に設ける。 ・アルファベットを正しく書くことができるように、4線を意識するよう促す。 ・これまで十分音声に慣れ親しんだ語を用いて場所について説明する。 	<p>聞</p>		

8 本時

- (1) ねらい 道案内の表現を使って、道を尋ねたり答えたりすることができる。
- (2) 準備 ワークシート（地図） ホワイトボード 拡大地図 振り返りシート
ピクチャーカード
- (3) 人権教育上の視点
互いのよさや違いを認め、生活の中の問題点に気づき、生活を向上させようとする。

(4) 展開

<p>学習活動</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>指導上の留意点及び支援・評価</p> <p>◎努力を要する児童への支援 ◇評価〈評価方法〉</p>
<p>1 あいさつをする。(10分)</p> <p>場所クイズをする。</p>	<p>○英語を学習する雰囲気づくりをするために、英語で挨拶をしたり、天気、曜日、月、時刻、気分をたずねたりする。</p> <p>○これまでの学習を想起できるように、拡大地図を用いて、既習表現を使って答えるクイズを出す。</p>
<p>2 めあてを確認する。(10分)</p> <p>・今まで習った英語を使って、道案内をし合って落とし物を届けることができそうだな。</p> <p>・困っている人を助けられるようになりたいな。</p>	<p>○学習意欲を引き出すことができるように、「落とし物を拾ったけれど、落とし主の家がわからない」という具体的な場面を設定し、実演を見せ、目的意識をもたせる。</p> <p>○教師が道を尋ねる役、ALTが道案内役であるという状況を視覚的に把握しやすくするために、ALTは警察帽を身に付ける。</p> <p>○「道を聞きながら届けに行きたい」という意欲を高めることができるように、心を込めて“Thank you”と言うなど、「落とし物をして困っていたこと」「届けてもらえて嬉しかったこと」が伝わるように実演をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Today's Goal 道案内をし合い、落とし物を届けよう。</p> </div>
<p>3 本時のゴールとなるモデルを見る。</p> <p>・相手の目を見て話をすると、よく伝わりそうだな。</p> <p>・相づちがあると、話し手は嬉しいし、安心して話せそうだな。</p> <p>・相手の言葉を繰り返すと、正しく伝わっているか確認できるな。</p>	<p>○見通しをもって取り組ませることができるように、教師とALTで、道案内をし合い落とし物を届けるやり取りの例を見せる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〈Demonstration〉</p> <p>C2 : Excuse me, Can you help me?</p> <p>C3 : Sure.</p> <p>C2 : Thank you. I want to go to C1's house.</p> <p style="padding-left: 40px;">Where's C1's house?</p> <p>C3 : C1's house.... OK. Go straight.</p> <p>C2 : OK. Next?</p> <p>C4 : Turn right at the flower shop.</p> <p>C2 : Flower shop, I see. Next?</p> <p>C3 : It's on your left.</p> <p>C2 : Oh, thank you! See you.</p> <p style="padding-left: 40px;">(ノックをして) C1, hello, here you are.</p> <p>C1 : Thank you !</p> </div> <p>○視覚的にも把握できるように、説明を短くし、実際にやってみせて理解を促す。</p> <p>○既習表現を適宜確認できるよう、ピクチャーカードを掲示しておく。</p> <p>○ALTと指導者は、聞く側の反応のモデルとなるように、喜んで驚いたり、相づちをうったりする。</p>

	<p>○相手を意識していない発話例と比較させ、「正確に情報を伝え合う」ための工夫について児童とやり取りし、コミュニケーションポイントを確認する。</p> <p>〈コミュニケーションポイントの例〉</p> <p>くり返し (Go straight.) 関連する質問 (What's shop?)</p> <p>相づち (I see. Next?)</p>
<p>4 道案内のやりとりをして、落とし物を届ける。(20分)</p>	<p>○人前で話すことに抵抗を持つ児童には、同じグループの児童と一緒に発話させたり、教師が横で支援したりしながら、安心して取り組ませることができるようにする。</p> <p>○状況や場面を把握しやすくするために、役割ごとに「家」「?(クエスチョンマーク)」「警察」のイラストを椅子に示す。</p> <p>○全員が活動に参加できるように、3～4人のグループを設定する。(1人が落とし物を届けてもらう役で、もう1人が道案内を聞きながら落とし物を届ける役、残りの2人が交互に道案内を行う役とする。)</p> <p>○グループの真ん中に大きな地図のワークシートを置き、落とし物を届ける役は、人のイラストのカードを地図上で動かす。その際、前後左右がどちらなのか分かるように、人のイラストと共に矢印のイラストも入れる。</p> <p>○道案内の表現を聞く必然性が生じるように、ゴールである落とし物をした子の家は、道案内役の児童が持っている地図だけに示すこととする。</p> <p>○場所の名前の把握がしやすくなるように、地図記号やイラストを交えた地図を用意する。</p> <p>○道案内の表現を、視覚的にも理解できるように、ジェスチャーを交えてやり取りさせる。</p> <p>○児童の実態に応じて、既習の様々な表現 (in front of , next to , between A and B や建物名など) を使って案内ができるように、声かけをする。</p>
<p>5 中間発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りやすいように発音したり、ジェスチャーをしたりすると、相手に道案内の情報を正確に伝えられるな。 ・私も、「この建物の隣です。」などと、詳しく説明してみよう。 	<p>○よりよいコミュニケーションを心がけることができるように、相手を意識したやり取りが見られた児童に発表をさせる。</p> <p>○相手を意識して伝え合う工夫に気付くことができるよう、正確に情報を伝え合おうとする姿について、聞いていた児童に尋ねたり称賛したりする。</p>
<p>6 再度、道案内のやりとりをして、落とし物を届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物の名前を使ったら、より 	<p>○正確に情報を伝え合うために、足りなかったところを付け加えながら発表するように促す。</p> <p>○児童の話し方、聞き方の工夫や態度を見取って称賛する。</p>

<p>詳しく家の場所を説明することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返して言ったら、正しく聞き取れていたか確認することができた。 色々な言葉で相づちを打ちながら、気持ちのよいやり取りができた。 	<p>◇知：位置や場所を表す語彙や、道案内の表現を用いてやり取りする技能を身に付けている。〈行動観察〉</p> <p>◇思：落とし物をどこへ届けたらよいか正確な情報を教えたり教えてもらったりするために、落とし主の家の位置や場所、道のりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。〈行動観察〉</p> <p>◇主：落とし物をどこへ届けたらよいか正確な情報を教えたり教えてもらったりするために、落とし主の家の位置や場所、道のりなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。〈行動観察〉</p>
<p>7 振り返りをする。(5分)</p>	<p>○本時のめあてを再確認し、言語面や内容面、単元を通して振り返ったことなどについて書くよう伝える。</p> <p>○めあてに沿った振り返りの言葉を紹介する。</p>

9 板書計画

※ホワイトボードに拡大地図を掲示する。